

チェックポイント③ 名勝小金井櫻の碑

名勝小金井の碑とは？

「名勝小金井櫻の碑」は昭和53年に建立された石碑です。
小金井桜の名で知られる玉川上水の桜並木は、元文2年（1737）頃、代官川崎平右衛門定孝等が新田の賑わいのため、吉野（奈良県）や桜川（茨城県）からヤマザクラの名品種を取り寄せ、小金井橋を中心とする玉川上水堤の両岸約6キロメートルに植えたものと伝えられています。江戸時代の浮世絵師歌川広重も小金井桜を題材にした作品を多く残しています。



行き方

【徒歩の場合】

- ①JR東小金井駅北口を出て、駅前の通り（地蔵通り）を左手に進むと、緑町1丁目の交差点に突き当たります。この交差点を右折します。
- ②1100mほど直進すると関野橋に突き当たります。橋の手前の交差点を左折し、上水桜通りを250mほど直進すると、平右衛門橋があります。
- ③平右衛門橋を右手に見ながら30mほど更に進むと、右手に名勝小金井櫻の碑があります。

【バスの場合】

東小金井駅からCoCoバス北東部循環に乗車し、「小金井公園入口」で下車します。下車すると目の前に平右衛門橋があります。平右衛門橋の30メートルほど西側に名勝小金井櫻の碑があります。

さらに見どころ！小川水衛所跡・境水衛所跡！

水衛所とは、江戸市中への水を確保するため、水番人と呼ばれる人が常駐していた場所です。名勝小金井櫻の碑から約2km下流に歩くと境水衛所跡が、約4km上流に歩くと小川水衛所跡があります。
少し距離はありますが、紅葉を感じながら、2つの水衛所跡を訪れてみてはいかがでしょうか。



▲小川水衛所跡

〈玉川上水全体図〉

